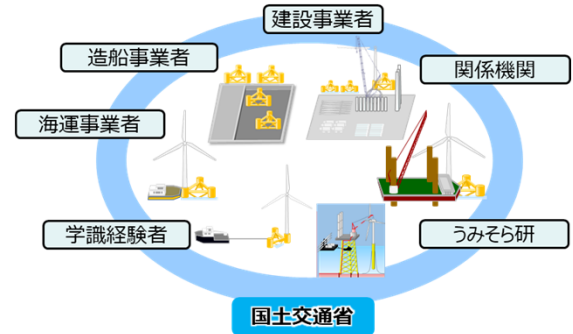


○浮体式洋上風力発電の大量導入に向けた海上施工や関連船舶に関する諸課題について、官民が連携し、横断的な議論を促進するため、令和6年5月に「浮体式洋上風力発電の海上施工等に関する官民フォーラム」を設置。
○令和6年8月に第3回を開催し、「浮体式洋上風力発電の海上施工等に関する取組方針」を提示。

背景

➤ 浮体式洋上風力発電設備の大量導入を進めるためには、浮体の組立・設置など多岐にわたる海上施工や関連船舶に関する諸課題について、様々な主体が連携の上、制度設計や技術検討を計画的に進めることが必要。



浮体式洋上風力発電の海上施工等に関する官民フォーラム

➤ 浮体式洋上風力発電の大量導入に向けた海上施工や関連船舶に関する諸課題について、官民が連携し、横断的な議論を促進するため、「浮体式洋上風力発電の海上施工等に関する官民フォーラム」を設置・開催。

構成員
国土交通省（総政局、海事局、港湾局、国総研）、うみそら研、関係機関（海事、港湾）、マリコン、ゼネコン、造船、海運、学識経験者等

開催経緯
R6.5.21 第1回
R6.6.25 第2回
R6.8.29 第3回（「取組方針」の提示）

浮体式洋上風力発電の海上施工等に関する取組方針

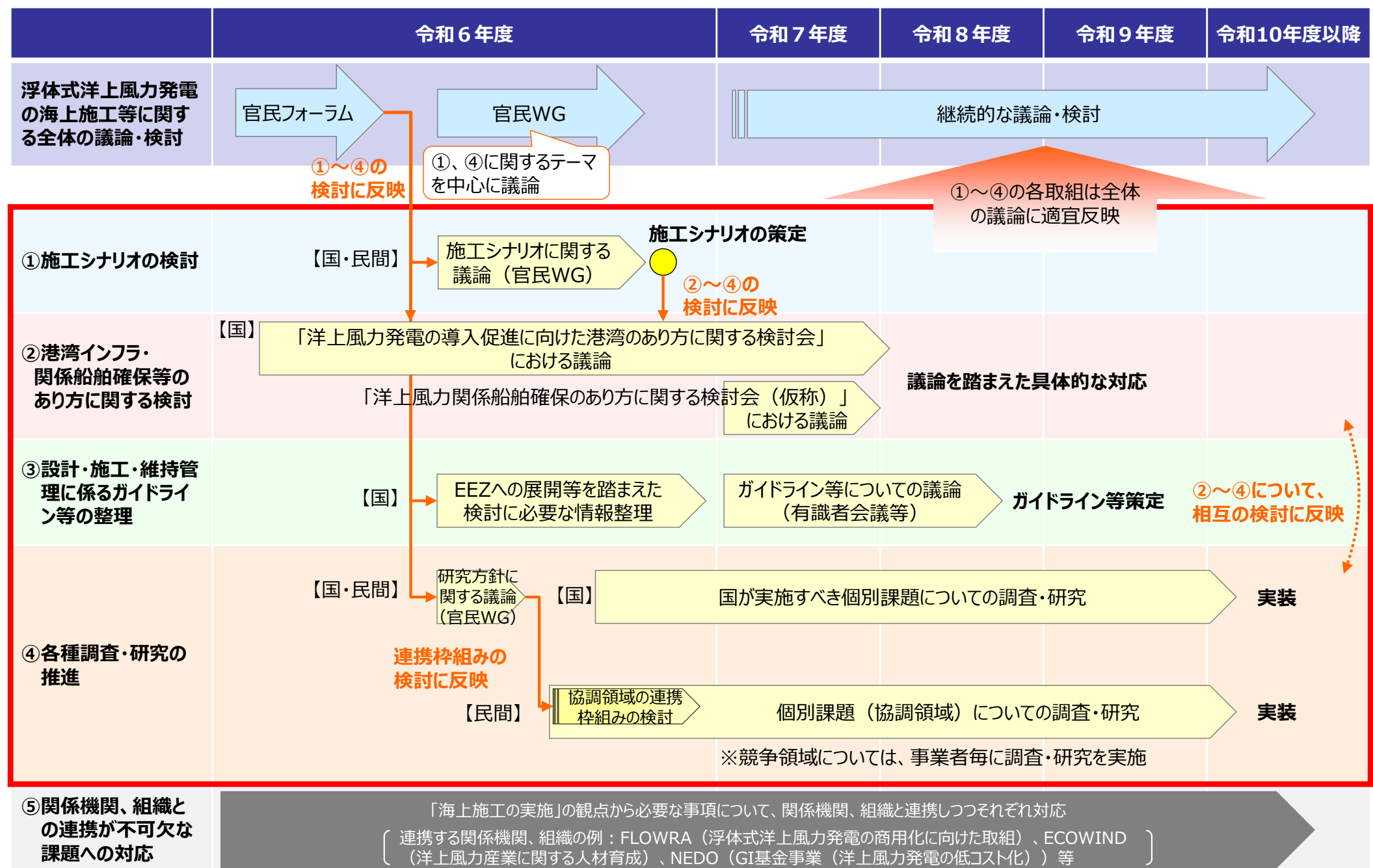
- ① **施工シナリオの検討**
 - 浮体基礎の種類別など複数ケースの海上施工シナリオについて検討 ※シナリオ策定後、②～④の検討に反映
- ② **港湾インフラ・関係船舶確保等のあり方に関する検討**
 - 浮体式の大量導入を可能とする港湾の機能や、船舶の需要見通しと確保に向けた取組みの検討
- ③ **設計・施工・維持管理に係るガイドライン等の整理**
 - EEZへの展開も踏まえたガイドライン等について整理
- ④ **各種調査・研究の推進**
 - 【国】技術的・制度的な調査・研究、【民間】協調領域の連携枠組みの構築

今後の対応

➤ 「取組方針」に基づき、今後①～④の取組を深化
➤ 特に、①施工シナリオ、④各種調査・研究に関する具体的な議論を実施するため、「官民WG」を設置 ※参加者や具体的な検討事項等は検討中



取組方針の進め方イメージ

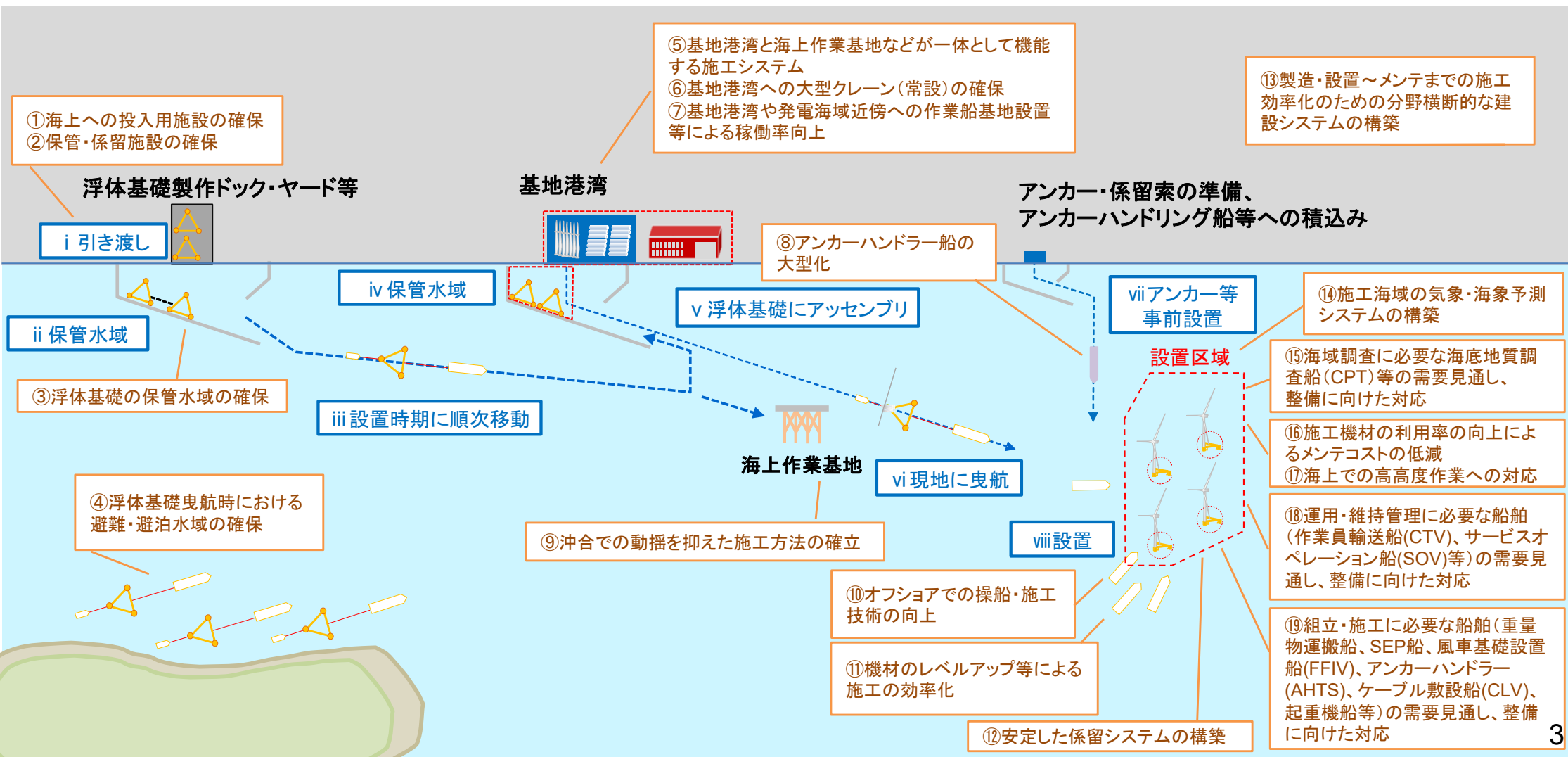


※「協調領域の連携枠組みの検討」等の民間が実施すべき取組は、あくまで想定。また、上記進め方全体については、今後の様々な情勢変化により変わることがあり得る。

浮体式洋上風力発電設備の海上施工等における諸課題

- 浮体式洋上風力設備の設置等に向けて、施工用機材や海上施工時において必要な船舶等の能力向上、施工・メンテナンスの効率化が課題として挙げられる。
- 様々な主体が連携し分野横断的に課題解決に向けて取り組む必要がある。

浮体式洋上風力発電所の海上施工手順(想定)と技術的課題





【取組方針①関係】浮体式洋上風力発電の海上施工シナリオの検討に向けた論点

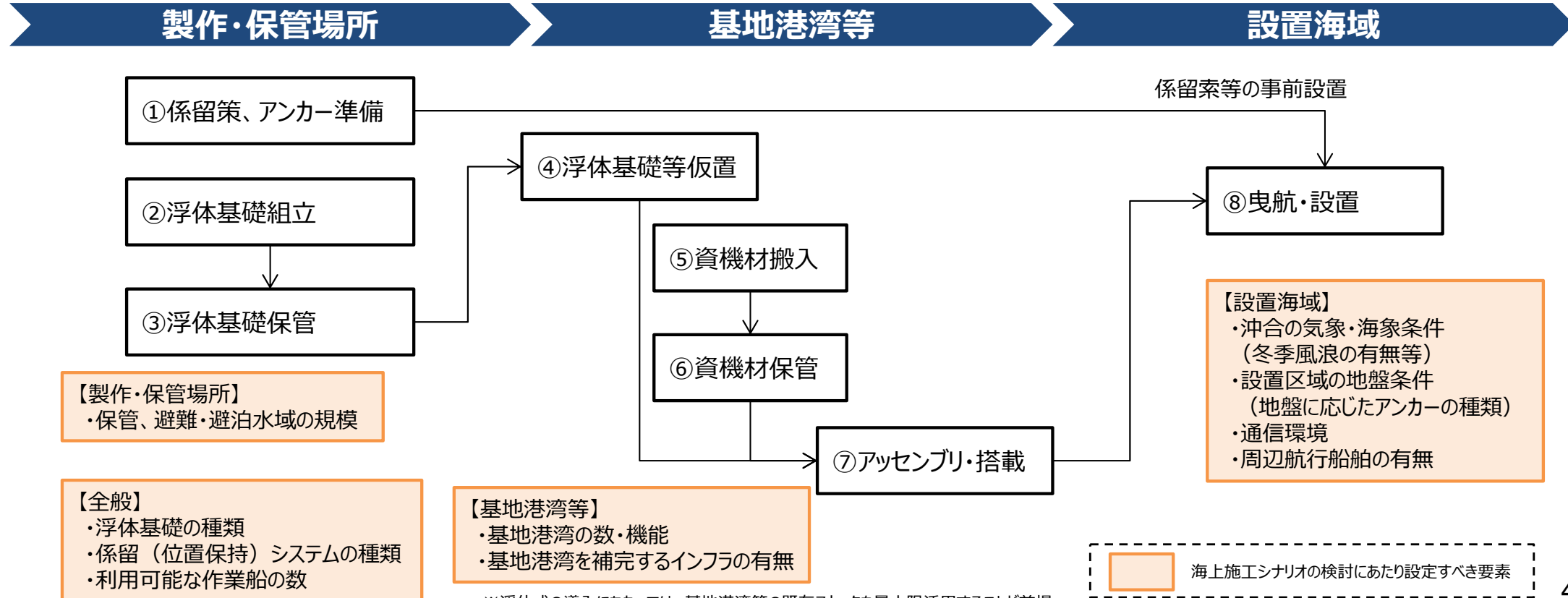
- 浮体式洋上風力発電の大量導入を見据え、海上施工においてボトルネックとなり得る点を具体化するため、「海上施工シナリオ」を整理することが必要。
- 海上施工シナリオの検討に必要な(1)前提条件、(2)設定すべき要素を以下の通り整理。今後、(2)についてより詳細に設定し、検討を深掘りする。

(1) 海上施工シナリオの検討に必要な前提条件 (案)

- ・設置水深：100m超
- ・風車の規模：15MW～20MW機
- ・基数：50～70基
- ・施工期間：2～3年間

(2) 海上施工シナリオの検討にあたり設定すべき要素 (案)

※下図はセミサブにおけるフローの一例を単純化したものであり、浮体基礎の種類や風車の規模、作業船や基地港湾の機能等により様々なケースが想定される。



※浮体式の導入にあたっては、基地港湾等の既存ストックを最大限活用することが前提